

■ 大紋

紙布織の大紋。
儀式用の大紋を染め直し日
常着にしたものと思われる。



■ 肩衣(江戸時代)

紙布織の肩衣。
昇藤に井桁の片倉家の家紋
をあしらっている。

■ 紙布織襦袢

紙布織の襦袢は汗をかいて
も肌にべとつかず使いやす
かったという。



■ 反物(江戸時代)

ちりめん紙布でできた紋入りの着物を
洗張りしたものである。

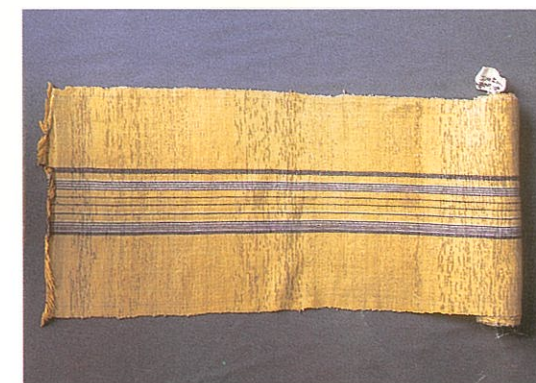


■ 反物

アルファベットの文字をデザインして
型染めされている。

■ 帯(江戸時代)

書道の手習で使った半紙を紙布糸
にし、織り込んだものである。染料
はウコンである。



■ 掛軸(昭和時代)

紙布織の掛軸である。



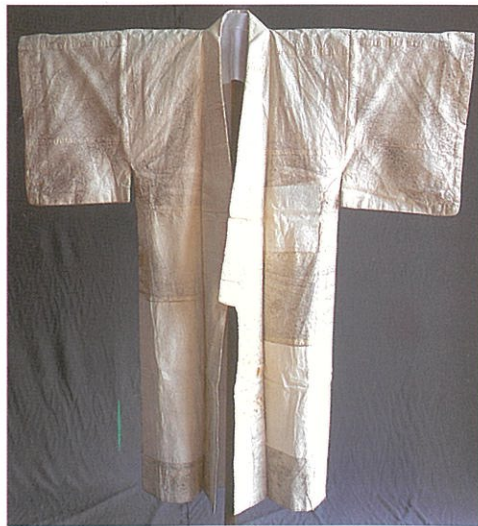
■ 神社幟(江戸時代)

慶応三年に奉獻されたものである。太
めの紙布糸で作られている。



■ 紙衣帯 (昭和時代)
蘭の絵柄の拓紙を用いた紙衣の簡易帯である。

■ 紙衣織帯
拓紙をそのまま折り込んだ帯である。



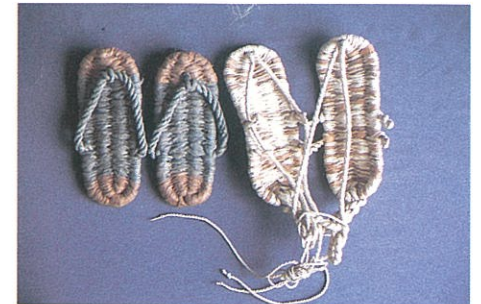
■ 紙衣
奈良東大寺のお水取りで仏僧が着用したもの。白石和紙を使って僧が手作りしたものである。

～紙より工芸品～

白石和紙の紙よりは、軽くて、丈夫で、見ばえよく実用性にとんでいた。そのため生活用品や武具・肌着などに加工された。



■ 細引
和紙でなった投網の手綱である。和紙製の綱は水につけると柔らかくなり滑りにくく使いよく丈夫であった。



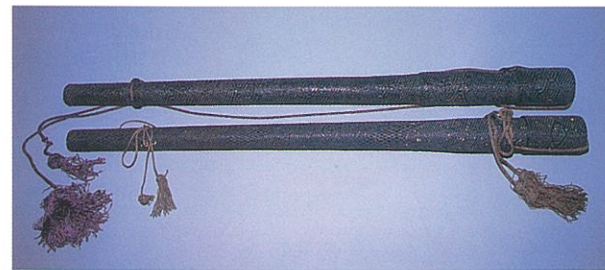
■ 紙わらじ
和紙を使って作られたわらじである。わら製のもの10里で4足必要だったのに比べ、紙製のものは160里歩けたという。



■ 胴乱 (江戸時代)
紙よりで編んだものに漆で表面を仕上げたものである。



■ きざみ煙草入れ (江戸時代)
紙よりで編み漆を塗ったきざみ煙草入れである。



■ 矢筒 (江戸時代)
紙よりで編んだ矢筒に漆を塗ったものである。



■ 火薬入れ (江戸時代)
紙より製の火縄銃の火薬入れで、逆さにすると一回に必要な量ができる仕組みになっている。